

私たちの町の文化財

■第2話 花岡山の薩軍砲座址

花岡山の中腹には、神風連の乱で亡くなった官軍兵士の墓所がありますが、この一角には『薩軍砲座の址』と記された石碑が建てられています。この地はかつて、西南戦争の時に薩摩軍の砲座として布陣された場所でもありました。

明治10年2月20日、川尻の地に到着した薩摩軍は、熊本城を攻撃するべく同年2月22日に城下へと進軍を開始します。これが西南戦争最初の戦いとなる熊本城攻防戦でした。この攻防戦は、2月22日から4月14日にかけて、52日間にも及ぶ戦いでした。攻防戦の構図は、熊本城に籠城する熊本鎮台兵(官軍)と、これを包囲する薩摩軍とにわかれ、激戦の末に官軍が薩摩軍の包囲を破るというものでした。花岡山の薩軍砲座から放たれた砲弾は、実際は熊本城までは届かず、手前の新町や段山付近に着弾したと伝えられています。砲座から熊本城天守閣までの距離は、直線距離で約2kmあります。当時の大砲は、四斤山砲と呼ばれる、元はフランス製のものを使用していました。花岡山の砲座から段山までは約1.5km、新町までは約1kmと想定すると、四斤山砲の射程距離は1～1.5kmであったと推測されます。現在の砲座址からも熊本城を眺望できますので、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

熊本市文化振興課 藤島志考氏

花岡山に設置された
薩軍大砲の射程距離
がもう少し長ければ、
歴史は変わっていたか
な？

